

「ないかな」

— 願望表現の包括的記述にむけて —

-Nai kana as a Form that Expresses the Speaker's Desire

高 梨 信 乃
Shino Takanashi

This paper discusses Japanese *-nai kana* as a form that expresses the speaker's desire. Sentences ending with *-nai kana* are negative questions, and they also indicate self-directed doubt as well. As a result, the basic meaning of *-nai kana* is the expression of doubt, and it has five types of usage including the expression of doubt (tending toward a positive proposition), expression of doubt (not tending toward a positive proposition), desire, fear and request. The desire usage derives from the expression of doubt (tending toward a positive proposition) usage when the proposition concerned is desirable for the speaker. However, the desire usage produces the request usage when the proposition concerned is a controllable action of the hearer and the sentence is used to address the hearer.

キーワード：

「ないかな」、願望、否定疑問文、疑い

Keywords:

-nai kana, desire, negative-question, doubt

1. はじめに

現代日本語において話し手がある事態の実現を願うことを表す表現に、次のようなものがある。

- (1) a. 海外旅行に行きたい。
- b. コロナ禍が早く収まってほしい。
- c. コロナ禍が早く収まるといいな。
- d. コロナ禍が早く収まらないかな。
- e. コロナ禍が早く収まりますように。

f. コロナ禍よ、早く収まれ!

(1a) は、話し手自身の行為である事態 (海外旅行に行く) の実現を願うものである。一方、(1b)～(1f) では、話し手自身の行為ではない事態 (コロナ禍が早く収まる) の実現を願うことが表されている。

これらの表現の呼び方には「希望」や「願望」がある。また、(1e) や (1f) が「祈願」の表現と呼ばれることもある。しかし、(1a)～(1f) のうちどの範囲を指して何と呼ぶかは、研究者や文献によって異なり、用語が混乱しているのが実情である。

このことはこれらの表現の研究状況と関係するだろう。これまでの研究はというと、(1a) (1b) については、記述・考察が比較的多くなされている (奥田 1986、宮川 1998、工藤 2005、高梨 2020 など)。一方、(1c)～(1f) については、それぞれの形式、もしくはそれに関わるモダリティや文タイプの研究の中で「希望」または「願望」「祈願」を表す用法が取り上げられるのに留まっている¹⁾。つまり、(1a)～(1f) は、これまで総じて個別的に取り上げており、包括的に扱われることがなかったのである。

ここでは、(1a) と (1b)～(1f) の区別を重視して、便宜上、話し手自身の行為の実現を願う表現である (1a) を希望表現、話し手自身の行為ではない事態の実現を願う表現 (1b)～(1f) を願望表現と呼ぶことにする。

希望表現や願望表現を用いた (1a)～(1f) のような文は、「うれしい!」などの文と同様に、「話し手の感情や感覚が、聞き手への伝達性を帯びることなく、自発的に発話される (日本語記述文法研究会 2003: 19)」文、すなわち表出的な文である。一方、これらの表現は、広い意味で事態の望ましさを表す点で、「べきだ」などの形式に代表される評価のモダリティと共通する点をもつ (益岡 2006、高梨 2010)。さらに、希望表現 (「したい」) は意志のモダリティ (「しよう」など) と近い側面があり (徐 2001、宮崎 2006)、願望表現は行為要求のモダリティと関連する²⁾。

こうした多様な側面をもつ希望表現・願望表現を、日本語の文タイプもしくはモダリティとの関連でどのように位置づけるべきか、本格的な考察はまだなされていないと思われる。さらに、願望表現 (1b)～(1f) は互いに接近した意味を表すと言えるが、これらの間にはどのような違いがあるのだろうか。これらを比較するような研究も、管見の限り見当たらない。

本稿では、特に願望表現の包括的記述を将来の課題としつつ、その中から (1d) のような「ないかな」を取り上げたい³⁾。

2. 本稿の目的

本稿で考察したいのは、「ないかな」が願望を表すのはどのような場合か、また、それはどのくらい用いられているのか、願望表現としてどのような特徴をもつのかということである。

次節3.で改めて述べるが、「ないかな」の文は、否定疑問文であり、同時に、疑いを表す文でもある。常に願望を表すわけではない。たとえば、(2)からは願望の意味は感じられない。また、(3)は願望ではなく、逆に話し手が恐れていること、すなわち危惧を表している。さらに(4)は願望というより聞き手に対する依頼だと言ってよいだろう。

(2) 長野に引っ越したらもう遠くなった東京からそんなに仕事はこないかなと思っていたのですが、この本が読者に好評だったこともあって、私が予想していたのとはまったく違った事態になりました。(山本麗子『山の中の幸福なキッチン』)

(3) (ちょっと怖いな、変なものに出会いやしないかな、ちゃんと戻ってこられるかな)と不安になってしまいます。(中山庸子『森の中のように、心が生きかえる本』)

(4) 「理瀬、私ともいっぺん踊ってくれないかな」(恩田陸『麦の海に沈む果实』)

このように「ないかな」にはさまざまな用法があることから、本稿では、まず「ないかな」の基本的な性格と全体像を捉えた上で、願望を表す「ないかな」の位置づけを行いたい。

以下、3.では「ないかな」に関連する先行研究を概観し、それらを踏まえて「ないかな」の基本的な性格を考察する。4.と5.では「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」から収集した用例を用いて、「ないかな」の用法を分類・整理し、その中で願望を表す「ないかな」を位置づける。最後に6.で、願望表現として「てほしい」と比べることにより「ないかな」の特徴を考える。

3. 先行研究

「ないかな」を一まとまりの形式として取り上げた先行研究は、ほとんど見当たらない⁴⁾。一方、疑問文として見た場合、「ないかな」には2つの側面が認められる。1つは否定疑問文という側面、もう1つは「かな」によって表される疑いの文という側面である。

疑いの文と否定疑問文については、それぞれ研究の蓄積がある。以下で概観したい。

3.1 「かな」と疑いの文

仁田(1991)は、疑いの文を「聞き手への問いかけを意図することなく話し手の判断成立への疑念を述べたもの(p.44)」とし、その文末形式には「かしら」「かな」「だろうか」が用いられるとしている。

(5) 「あら、私、瞬間湯沸器の点火栓を消してきたかしら？」

(6) 「あいつ、ユーレーかな、やっぱり。」

(7) 「もしかしたら、おれはもう手遅れじゃないだろうか。」 (以上、仁田 1991: 44)

三宅(2000)は、「かな」の本質的な意味を「疑問内容を検討中であることの表明」とし、そのことから「かな」は、命題が不確定であることを表明するのみである、すなわち「疑念表明」

の一種であると述べている⁵⁾。その上で、そこから拡張した用法として(8)のように聞き手が答えるための情報をもっていないことが明らかな状況で発せられる「弱い質問」があることを指摘している。

(8) 今度上映される「タイタニック2」って映画、面白いカナ? (三宅 2000: 16)

日本語記述文法研究会(2003)も三宅(2000)と同趣旨のことを述べている。同書は(5)~(7)のようなものを疑いの疑問文と呼ぶ。そして、これらについて「本来的には聞き手への問いかける機能をもたないので、独話的な用法が基本である(p.35)」としつつ、その独話的な性質を利用して(9)のような、聞き手に応答を強制しない質問などの対話的な用法が派生されるとしている。

(9) A「佐藤は、本当のことをどこまで知っているのかな?」

B「さあ、わからないな。よく知らないと思うんだけど」

(日本語記述文法研究会 2003: 36)

本稿では、「かな」の基本的な意味を、三宅(2000)にならって「疑念表明」と捉えることにしたい。先行研究で指摘されている、「かな」による疑いの文が本来的には独話的であるという点、その一方で、対話的な用法ももつという点は、いずれも「ないかな」の性格を考える上で重要だと思われる。

3.2 否定疑問文

否定疑問文が肯定疑問文とは非対称的であり、異なる性格をもつということは、よく知られている。

日本語記述文法研究会(2003)は、「真偽疑問文はある命題の真偽を尋ねるものなので、肯定疑問文だけでもその機能を果たすことは十分に可能である。否定疑問文の機能の特徴は、命題の真偽を尋ねるといった質問の中心機能以外のところにある(p.30)」とし、否定疑問文の用法として、その事態の実現に対する願望や不安といった話し手の感情を表す用法(例(10)(11)、ここでは「用法①」とする)と、ある判断への傾きを含んだ問いかけの用法、すなわち「否定形式を含んだ文内容(否定命題)とは逆方向の、肯定命題の成立に話し手が傾いている」という前提のもとで質問する用法(例(12)(13)、ここでは「用法②」とする)を挙げている。

(10) ええと、どこかにハサミはないかなあ。

(11) こんなことして、田中は怒りはしないか。

(12) 雨、降ってませんか? 天気予報では午後から雨だったんですけど。

(13) 昨日はお疲れさま。疲れ、残ってない?

(以上、日本語記述文法研究会 2003: 30)

日本語記述文法研究会(2003)が区別する否定疑問文の用法①と用法②には、共通点が見られる。それは何らかの傾きをもつということであろう。同書での用法①の記述には傾きという

用語は用いられていない。しかし、肯定事態（(10)では「ハサミがある」、(11)では「田中が怒る」）が実現することへの話し手の願望または不安（本稿でいう危惧）が表されることで、肯定事態への情意的な傾きをもつと言うことができるだろう。

安達（2014）は、否定疑問文を「通常の疑問文に対する有標性をもった疑問文である（p. 110）」とした上で、(10) (11) のようなものを情意的な方向への有標性、(12) (13) のようなものを認識的な方向への有標性をもった疑問文と捉えている。本稿もこの立場に賛同する。

そして、(10)に見られるように、本稿が注目する願望の「ないかな」が、否定疑問文のこの用法の例として挙げられていることに注目しておきたい。

以上では否定疑問文がもつ傾きについて確認した。しかし、すべての否定疑問文が傾きをもつわけではない。安達（1999）は、否定疑問文のうち傾きをもつタイプとは明確に区別されるものとして、(14) (15) のような例を挙げている。

(14) 夏子「兄がいなくても龍錦の種糊はあるのよ。それでも出ていくつもり？」

草壁「夏子さんは人に頼らなければ龍錦を育てられませんか」

(15) 冴子「夏子さんでしょ？」

夏子「ええ、あなたは？」

冴子「思い出さない？ 一緒の小学校だったでしょ？ 橋本冴子」

（以上、安達 1999: 27）

安達（1999）は、(14) (15) を否定命題（(14)では「夏子が人に頼らなければ龍錦を育てられない」、(15)では「(あなたが) 思い出さない」）を問いかける文と捉え、「命題否定疑問文」と呼んでいる⁶⁾。

否定疑問文に(14) (15) のようなものがあることは無視できないだろう。否定疑問文は肯定事態への傾きをもちやすいが、一方、傾きをもたず、否定事態を疑問の対象とする場合もある。「ないかな」の分析にあたっては、このいずれの点にも留意する必要があると思われる。

3.3 「ないかな」の性格

以上、疑いの文と否定疑問文に関して先行研究で指摘されていることを見てきた。これらを踏まえると、本稿の考察対象である「ないかな」の性格は、(16)のようにまとめられるだろう。1) ~ 3) は、「かな」による疑いの文としての側面から、4) 5) は否定疑問文としての側面からもたらされるものである。

(16) 「ないかな」の性格

- 1) 基本的意味として、疑問内容を検討中であるという疑念表明を表す。
- 2) 本来的には、聞き手に問いかける機能をもたず、独話的である。
- 3) 独話的性質を利用して、聞き手に応答を強制しない質問など、対話的に用いられることもある。

4) 肯定事態成立への傾きをもちやすい。傾きには情意的なものと同識的なものがある。

5) 肯定事態成立への傾きをもたず、否定事態を疑念の対象とすることもある。

このような性格をもつ「ないかな」は、どのように用いられているのだろうか。以下では、書き言葉コーパスの用例をもとに「ないかな」の用法を分析していく。

4. BCCWJにおける「ないかな」の出現状況

まずは、「ないかな」の使用状況を概観するため、「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」の全体における出現状況を見る。

4.1 調査方法

BCCWJの全データを対象とし、検索ツール「中納言」の短単位検索を用いた。以下、検索条件を述べる。キーを語彙素「ない」に指定する場合と、語彙素「無い」に指定する場合に分け、いずれについても後方共起(キーから1語)に語彙素「か」、さらに後方共起(キーから2語)に語彙素「な」を指定して、検索した⁷⁾。

キーを語彙素「ない」に指定した場合については、検索結果として903件がヒットした。このうち「ないかな」の「ない」の部分が複合形式の一部であり実質的な「ない」とみなせないもの(「なくてはいけないかな」「てはいけないかな」など)41件を考察対象外として除いた結果、862件を得た。キーを語彙素「無い」に指定した場合については2,836件がヒットしたが、このうち1,865件は「のではないかな」であった。「のではないかな」はモダリティ形式として文法化しているため、考察対象外として除いた。さらに、「ない」が複合形式の一部であるもの(「しかないかな」「しょうがないかな」など)65件と誤解析1件を除いた結果、905件を得た。以上の2つの場合を合計し、得られた「ないかな」の用例は1,767件となる。

4.2 結果の概要

得られた用例の概要について述べる。本稿では、用例の現れた文章の種類分けについては野田編(2016)にならう。具体的には、BCCWJのレジスタを基本としつつ、そのうちの「書籍」と「ベストセラー」を合わせた上で「文学」と「文学以外」に分類し直した。結果、計12に分かれた文章の種類を便宜上〈ジャンル〉として示す(BCCWJの「ジャンル」とは異なる)。

以下、表1に「ないかな」の〈ジャンル〉別の出現状況を示すが、比較対象として、高梨(2020)で取り上げた「てほしい」の出現状況を並べて示す。〈ジャンル〉によってデータ量(総語数)が異なるため、100万語単位での出現数(PMW)も併せて示す。

表1では用法を区別せず単純に出現状況のみを見ているが、「ないかな」の出現頻度は高くなく、全体で「てほしい」の14%程度である。その中で〈ジャンル〉別に見ると、ブログが最も

「ないかな」（高梨）

表1 BCCWJにおける「ないかな」と「てほしい」の〈ジャンル〉別出現状況

〈ジャンル〉	総語数	「ないかな」		「てほしい」	
		出現数	PMW	出現数	PMW
文学	20,139,268	385	19.1	2,150	106.8
文学以外	42,533,142	204	4.8	3,728	87.6
雑誌	4,444,492	36	8.1	636	143.1
新聞	1,370,233	2	1.5	275	200.7
白書	4,882,812	0	0.0	39	8.0
広報誌	3,755,161	6	1.6	341	90.8
法律	1,079,146	0	0.0	0	0.0
国会会議録	5,102,469	150	29.4	476	93.3
教科書	928,448	6	6.5	24	25.8
韻文	225,273	0	0.0	3	13.3
知恵袋	10,256,877	431	42.0	2,424	236.3
ブログ	10,194,143	547	53.7	2,346	230.1
計	104,911,464	1,767	16.8	12,442	118.6

高く、次いで知恵袋、国会会議録、文学、雑誌と続く。「てほしい」が法律以外のすべての〈ジャンル〉に現れているのに対し、「ないかな」は法律、白書、韻文で0件であるほか、新聞、広報誌でもわずかであり、現れる〈ジャンル〉が限られていることが確認できる。

次に、「ないかな」はどのような用法で用いられているのか、その中で願望の「ないかな」はどのように位置づけられるのかを考えていきたい。

次節5.では個々の用例を詳しく見るため、考察範囲をブログに絞ることにする。上に見たように、ブログは〈ジャンル〉のうち「ないかな」の出現頻度もっとも高い。このことは、文体的な性格に加え、ブログがウェブページ上に個人が記す記録や論評などであり、書き手の感情が率直に吐露されることが多い文章であることとも関係すると思われる。

5. 「ないかな」の用法——ブログにおける用例から——

ブログに現れた547件の用例を観察した結果、〈願望〉〈危惧〉〈依頼〉〈疑念表明（傾きあり）〉〈疑念表明（傾きなし）〉の5つの用法に分けられることがわかった。

以下、順に用例とともに取り上げながら、用法間の関係も考えていきたい。

5.1 〈願望〉と〈危惧〉

まず、(17)～(21)は、当該の肯定事態（(17)の場合「宝くじが当たる」）の実現を話し手が願うことを表す〈願望〉の例である⁸⁾。

- (17) やはりガレージ付の家にでも住みたいものです。宝くじ当たらないかな～ (涙)
- (18) まだまだ火曜日…早く日曜にならないかなあ～……
- (19) いつも行っているところは散髪前と後にシャンプーしてくれてエリ・髭剃りもしてくれて二千円ですから。早く営業してくれないかなあ。
- (20) あ～イケメン探したいけど、周りは見事に女性しか居ません (>_<) ああどっかにイケメン居ないかな (笑)
- (21) ああ1日中、好きなように落書きして好きなだけ紙粘土いじってていいですよ、っていう仕事ないかな～……ふふふ

一方、(22)～(25)は、肯定事態((22)の場合「チビが怪我する」)の実現を話し手が恐れることを表す〈危惧〉の例である。

- (22) チビ…無事楽しくいってくるかな?今になって、ははのほうが、怪我しないかな?事故にあわないかな?と…親ばかな心配をしております
- (23) さらに、エースケはマナカのママのおっぱいを飲んでいたよ!……といっても、哺乳瓶に絞ってもらった物を少しだけ。エースケ、おなか痛くなってないかなあ?!
- (24) 今日は、雨の予報で、また、降らないかな?と思ったけど洗濯物は全部片付けてあったのホッ。
- (25) 最近寒いね。みんな風邪ひいてないかな?うがい、手洗いしようね

〈願望〉になるか〈危惧〉になるかは、当該の肯定事態が望ましいものであるか、望ましくないものであるかによって決まる。

ただし、注意が必要なのは、ここで言う事態の望ましさとはあくまで話し手にとっての主観的なものだということである。そのことが確認できる例として(26)を挙げる。

- (26) クロームではありませんが、髑髏ですw だいぶ、イライラが薄れましたw 今、誰か、どこかで、血、流してないかな………毒入りじゃなくて、美形さんの血で若かったら欲しいな

(26)の肯定事態「今誰かがどこかで血を流している」は通常は望ましくないものであることから、この1文だけ見れば〈危惧〉と解釈される例であろう。しかし、前後の文脈を見れば、話し手にとってこの事態は望ましいものであり、〈願望〉の例であることがわかる。

5.2 〈願望〉から〈依頼〉へ

次の(27)(28)は〈依頼〉を表す場合と考えられる。

- (27) でも頭から「二十三日二十四日は出勤やな」みたいに言われたら、抵抗するよね。「もうしわけないけど、無理して出してもらえないかな～」って言われたら、「ごめんね～。この日は、どうしてもむりやわ～」って言えるけど。。
- (28) 「そうだね、何か歌ってもらおうかな、それから踊りもね、俺と踊ってくれないかな

あ」「お父さん、何言ってんのよ、一緒に踊るのはダメよ」と隣のお母さん。

1. で見たように、「ないかな」に限らず、願望表現は、望まれる事態が聞き手の制御可能な行為であり、聞き手に向けて発せられる場合、行為要求として機能する。つまり、〈依頼〉は〈願望〉から派生する用法とすることができる。

重要な点は、〈依頼〉の場合、「ないかな」に受益性を表す「てくれる」もしくは「てもらえる」が前接した「てくれないかな」「てもらえないかな」の形をとることである。〈願望〉でもこれらの形をとる場合はあるが、〈依頼〉では必須である⁹⁾。

〈願望〉と〈依頼〉の境界は必ずしも明確でない場合もある。願望の対象が聞き手の制御可能な行為であっても、聞き手に向けて発していなければ〈依頼〉にはならないからである。

たとえば、(29)は母親が小さい子どもを背中に乗せてお馬さんごっこをしている場面を綴ったものである。話し手が行為者である子ども(はるか)に向かって発しているとすれば、〈依頼〉だが、独話的につぶやいているのであれば、〈願望〉である。

(29) はるか、おかあちゃん、動けないよ～！ いい加減、降りてくれないかなあ。イヤにやによね！ お馬さんじゃないよ～

3.1 で見たように、疑いの文である「ないかな」は、基本的に独話的でありつつ対話的にも用いられるという性格をもつ。このことは「ないかな」における〈願望〉と〈依頼〉の連続性と関連していると言えるだろう。

5.3 〈疑念表明(傾きあり)〉と〈願望〉〈危惧〉

次の(30)(31)は、〈疑念表明(傾きあり)〉とした例である。

(30) 岡田監督は大差を逆転された責任からなんだろうが、時期を考えて欲しかった。それに大差をつけたのは阪神の力、ハンデをもらってた訳じゃない。結果、わずかに逆転された。ジャイアンツががんばった。そう考えられないかな？ 最後は野球ファンは接戦を楽しんだ。

(31) いかにも、悪だくみしてまっせ、といたげな写真やがな。何枚も撮った中から、わざわざ選んだんやろなあ。それにしても、「鮮度が良いのは原則的に使い回していた」ことを「私自身は見えていません」てのはちょっと矛盾が酷すぎないかな。ま、見てよが見てまいが、この際関係ないんだけどね。

(30)(31)は〈願望〉〈危惧〉のいずれとも受け取りにくい。しかし、肯定事態((30)では「そう考えられる」、(31)では「矛盾が酷すぎる」)が成立するという判断に話し手が傾いていることは感じられる。3.2 で見たように、否定疑問文の傾きには情意的なものと同様のものがある。情意的な傾きは〈願望〉〈危惧〉につながる。一方、(30)(31)は認識的な傾きをもつ場合と考えられるだろう。

ただし、傾きが情意的か認識的かは区別しにくい場合もある。(32)～(34)は本稿では〈疑

念表明 (傾きあり) 〉に分類したものである。しかし、これらの例における肯定事態 ((32) の場合「何か作れる」) については、話し手が成立の判断に傾いているのか (認識的)、その事態の成立を望んでいるのか (情意的)、区別が難しいところである。これらは〈疑念表明 (傾きあり) 〉の中でも〈願望〉に接近した例と考えたい。

- (32) 先日のバーベキューで食べた新たまねぎ。甘くて柔らかくて、美味しい〜♪ 我が家でバーベキューは無理だけど、何か作れないかな? と考えました。そこで思いついたのが「新たまねぎのステーキ」
- (33) 私のデジカメでは、遠くはピントが合いにくい。でも、何枚かとればシャープな写真が撮れないかなと試していると、主人もキジを見ようとほかの窓に近づいていました。
- (34) 四国でのライブは、遅い時間が多いですね♪ 仕事が終わってから行けないかな〜♪ ……なんて考えちゃいます (笑)

同様に、(35)~(36) は、〈危惧〉に近い〈疑念表明 (傾きあり) 〉と考える。

- (35) みなさんは、冷蔵庫のお掃除はどんなやり方してますか? ただ、水拭きしている人居ないかな? そのやり方は、とても危険みたいですよ
- (36) この先、もっと暑くなったら、自分でもキャディが続けられるのか? と不安に思っています。私は、自分の視力が1.0を切ったら、もうキャディは出来ないかな? 思ってるんです。

以上見たことは、〈疑念表明 (傾きあり) 〉と〈願望〉〈危惧〉の連続性を示している。つまり、〈疑念表明 (傾きあり) 〉において、当該の肯定事態が話し手にとって望ましい事態であれば〈願望〉へ、望ましくない事態であれば〈危惧〉へとつながっていく。〈疑念表明 (傾きあり) 〉と〈願望〉〈危惧〉との境界は明確ではなく、連続的だと言うことができるだろう。

5.4 〈疑念表明 (傾きなし) 〉

最後に〈疑念表明 (傾きなし) 〉を見る。

- (37) 噛んでいると だんだん柔らかくなってきますが〜 梅だからスッパ〜 (はちみつ入りって書いてあるけど) あまり甘さは感じないかな〜! それでも くせになるな〜
- (38) 今日はお出かけて私も半分力尽きておりました。明日も野球部の試合ですので見れないかな?? もうこれ以上は負けたくないですね!! 明日、頑張ろう!!
- (39) 赤毛の안의テキストを買ってきました! CDは別売りだそうです、TVは録画してるから当分買わないかな?
- (40) 今朝の仙台は曇りで雨が降りそうな感じです。昨日も雨。でもそんなに寒くはないかな、と思いました。

(37)~(40) は〈願望〉〈危惧〉とは受け取れない。また、肯定事態 ((37) の場合「甘さを

感じる)の成立に話し手の判断が傾いているとも感じられない。これらは否定事態((37)の場合「甘さは感じない)の成立に対する疑念表明を表しているのである。3.2で、否定疑問文は傾きをもちやすいものである一方、傾きをもたない場合もあることを見た。「ないかな」においてそれに該当するのが(37)~(40)のような〈疑念表明(傾きなし)〉であると言える。

〈疑念表明(傾きあり)〉が〈願望〉〈危惧〉への連続性をもつものに対し、〈疑念表明(傾きなし)〉はほかの用法との関連をもたない。

5.5 「ないかな」の用法間の関係

以上、「ないかな」の5つの用法について見てきたことをまとめてみよう。用法の派生関係から言えば、5.1~5.4で見た順とは逆に、〈疑念表明〉が基本となる用法である。

(41) 「ないかな」の用法間の関係

- 1) 「ないかな」による〈疑念表明〉には、肯定事態成立への傾きをもつ〈疑念表明(傾きあり)〉と、肯定事態への傾きをもたず、否定事態を疑念の対象とする〈疑念表明(傾きなし)〉がある。
- 2) 〈疑念表明(傾きあり)〉のうち、その事態が話し手にとって望ましいものである場合は〈願望〉、望ましくないものである場合は〈危惧〉を表すことになる。
- 3) 〈願望〉のうち、望まれる事態が聞き手の制御可能な行為であり、かつ、聞き手に向けて発せられた場合は〈依頼〉を表すことになる。
- 4) 〈疑念表明(傾きあり)〉と〈願望〉〈危惧〉の間は連続的である。また、〈願望〉と〈依頼〉の間も連続的である。

つまり、「ないかな」の5つの用法間の関係は、図1のように示すことができるだろう。

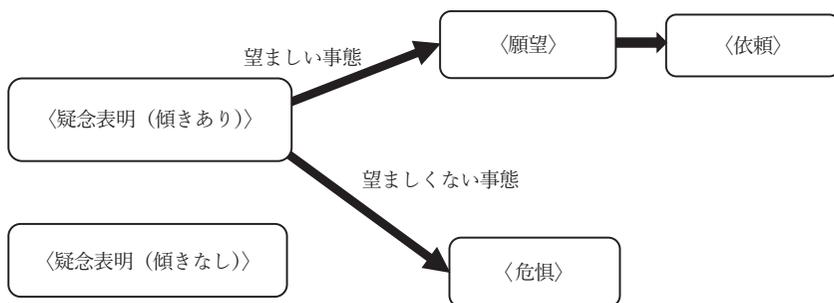


図1 「ないかな」の用法間の関係

5.6 5つの用法の出現状況

では、「ないかな」のこれら5つの用法はそれぞれどのくらい用いられているのだろうか。今回考察したブログの用例547件を用法別に分けると、表2・図2のようになった。

表2 ブログにおける「ないかな」の用法別の内訳

〈疑念表明 (傾きなし)〉	183
〈疑念表明 (傾きあり)〉	94
〈願望〉	244
〈依頼〉	6
〈危惧〉	20
計	547

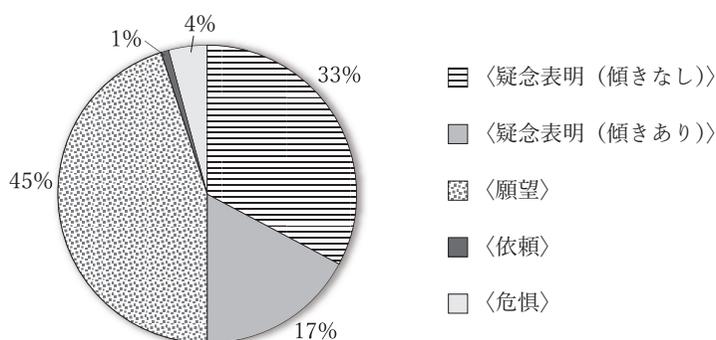


図2 ブログにおける「ないかな」の用法別の内訳

表2・図2が示すように、ブログの「ないかな」では〈願望〉がもっとも多く、全体の45%を占める。一方、もっとも少ないのは〈依頼〉である。〈危惧〉も〈願望〉よりはるかに少ないことがわかった。

一見、意外なのは、〈疑念表明 (傾きなし)〉が〈疑念表明 (傾きあり)〉より多いことである。否定疑問文は傾きをもちやすいという従来の見解と逆の結果であるように見えるが、それは当たらない。すでに見たように、〈疑念表明 (傾きあり)〉だけでなく、〈願望〉〈依頼〉〈危惧〉も傾きをもつ用法だからである。とはいえ、傾きがない用法が全体の33%を占めていることには注目すべきであろう。

今回の調査は小規模なものであり、ブログという書き言葉の用例であることが結果に与えている影響も考慮する必要がある。が、「ないかな」の各用法がどのくらい用いられているか、およその傾向は明らかになったのではないか。少なくとも「ないかな」において〈願望〉の用法が大きな割合を占めていることは確認できたと思われる。

では、〈願望〉の「ないかな」は、願望表現としてどのような特徴をもつのだろうか。次節6.ではその点に触れることにする。

6. 〈願望〉の「ないかな」の特徴

願望表現に限らず、ある形式の特徴を明らかにするためには、ほかの形式と比べることが有効である。ここでは、高梨(2020)で取り上げた「てほしい」の〈願望〉と比べることにより、「ないかな」による〈願望〉の特徴と言えそうなことを指摘したい¹⁰⁾。同じBCCWJのブログに現れた例を用いて考察する。

まず、2つの形式がどのくらい現れているかを見ておこう。ブログにおける〈願望〉の「ないかな」と「てほしい」の出現数は表3のようであり、「ないかな」は「てほしい」の4分の1程度である。

表3 ブログにおける〈願望〉の「ないかな」と「てほしい」の出現状況

	出現数	PMW
〈願望〉の「ないかな」	244	23.9
〈願望〉の「てほしい」	966	94.8

(※ブログの総語数 10,194,143)

次に、意味の違いを考える。そのために〈願望〉の「ないかな」と「てほしい」の用例を互いに置き換えることが可能か、置き換えた場合の意味の変化はどうかを見ていくと、次のようなことが確認できる。

まず、「ないかな」から「てほしい」への置き換えを見ると、統語的な条件により置き換えにくい場合や、置き換えるためには文に変更を加えなければならない場合もあるものの、総じて、(42) (43) のように置き換え可能な場合が多い¹¹⁾。

(42) なんだか鬱陶しい耳痛 はやく {治らないかな? / 治ってほしい}。

(43) 仕事もやる気が出なくて。はやく休みが {こないかなあ / きてほしい}。

しかし、置き換えるとやや違和感が生じる場合もある。それは、(44)～(46) のように、あり得ないことを願うような、夢想的な願望を表している場合である。

(44) 私が無言で食べるなんて無理ですわ。また食べたいよ！ 来週も節分来ないかな～！
みんなはどんな恵方巻き食べたかな？

(44') 来週も節分来てほしい。

(45) けれど、今は何もかもが空虚で、重苦しい溜め息が胸を埋めている。何処からかハーメルンの笛吹きが現れて、人生の幕を降ろしてくれないかな、と、そんな弱音を吐く心がいても、体は規則正しく脈打っている。

(46) さて……明日からの生活費は、どこから出せば良いんだろうか??? どっかからお金降ってこないかなあ～～!!

(44') から確認できるように、(44)～(46)を「てほしい」に置き換えても正しい文にはなる。しかし、「ないかな」の文がもつニュアンスは「てほしい」では表されないという印象を受ける。このことは「ないかな」による〈願望〉の特徴を表しているのではないか。

逆に、「てほしい」から「ないかな」への置き換え可否を見ることで、その特徴がより明らかになってくる。こちらは総じて置き換えが難しい。「てほしい」の文の統語的な条件により「ないかな」に置き換えられない場合がいくつかあるが¹²⁾、それ以外の、「ないかな」で可能な場合であっても、文脈からすると奇妙な文になるものが多い。(47')を例にすると、「ないかな」ではかなり難しく、受益性を表す「てくれる」を加えれば多少よくなるものの、やはりこの文脈にはそぐわないだろう。(48)～(49)も同様である。

(47) 今日、成人女性体重ぎりぎりというお客様を担当した。(中略) いっぱいアロエ飲んで、いっぱいご飯食べて、体力をつけてほしいです。

(47') 体力を {?? つけないかな / ?つけてくれないかな}。

(48) 画像3はたくさん実りすぎているしし唐です。出来すぎで手におえません (´△`) 汗昨日も雨が降っていい水分補給になりました♪ 元気に育ってほしいです。

(49) 豊スタのコートジボアール戦、このプレーを思い出して、是非ゴールを奪ってほしい。一方、「てほしい」を「ないかな」に置き換えてもかなり自然な用例も少数ながら見つかる。それは以下のようなものである。

(50) 大学時代、夜夜行列車に乗って帰って来たこと思い出します。(中略) もうあんな旅は、帰ってこないのですね。なくなってみて、痛切に思います。復活してほしいです。

(51') 復活しないかな。

(51) 秋山さんの熱演、共演者からも賞賛されているようですね。秋山さん、大河ドラマに出て欲しいなあ。

(52) まあ、1年に1回の行事なんですけど。バレンタインデーの義理チョコ、廃止してほしいわ～

(50)～(52)に共通するのは、実現する見込みがないことを願う、あるいは実現の見込みを問題にせずに願う〈願望〉ということではないだろうか。その点でこれらは上で見た(44)～(46)と同様だと思われる。

つまり、「ないかな」による〈願望〉の意味的な特徴は、実現する見込みを問題にしない、夢想的な願望を表しやすいということだと思われる。そのため(47)～(49)の「てほしい」が表しているような、現実的な問題としての〈願望〉には用いにくいのであろう。

ここで思い出したいのは、「ないかな」の〈願望〉がどのような出自をもつものである。「てほしい」が「ほしい」という形式により願望を直接的に表す表現であるのとは異なり、「ないかな」の〈願望〉は、〈疑念表明〉から派生するものであった。「ないかな」による〈願望〉がもつ意味的な特徴は、前節5.までの議論と関連づけられると思われる。

7. おわりに

以上、〈願望〉の「ないかな」について考えてきた。明らかになったことの要点を改めてまとめる。

- 1) 「ないかな」は、「かな」による疑いの文であり、かつ否定疑問文であるという2つの側面から性格づけられる。
- 2) 書き言葉における「ないかな」の出現頻度は高くはなく、現れる〈ジャンル〉も限られる。
- 3) 「ないかな」の用法は、〈疑念表明(傾きあり)〉〈疑念表明(傾きなし)〉〈願望〉〈危惧〉〈依頼〉の5つに分けられる。〈願望〉は、〈疑念表明(傾きあり)〉のうち、その事態が話し手にとって望ましいものである場合に派生されるものである。また、〈願望〉のうち、望まれる事態が聞き手の制御可能な行為であり、かつ、聞き手に向けて発せられた場合は〈依頼〉を表すことになる。
- 4) 「ないかな」による〈願望〉には、実現する見込みを問題にしない、夢想的な〈願望〉を表しやすいという特徴が見られる。

本稿では、「ないかな」の全体像の中で〈願望〉を位置づけることに重点を置いた。使用実態については、ブログ以外の書き言葉や話し言葉についても調べる必要がある。また、願望表現としての性格は、「てほしい」だけでなく、ほかの形式とも比べることで新しく見えてくることもあるはずである。

今回扱えなかった形式の記述も含め、願望表現については考察すべきことが多く残されている。今後少しずつ取り組んでいきたい。

注

- 1) (1c)「といい」については評価のモダリティの研究(高梨 2010 など)で、(1e)「ますように」については「ように」節の研究(前田 2006 など)で、(1f)命令形については命令の研究(仁田 1991 など)において言及されている。(1d)「ないかな」に関連する研究については3.で詳しく述べる。
- 2) 本稿では、行為要求を「聞き手が行為を実現すること(または、実現しないこと)を求めたり、容認したりする機能(高梨 2010: 191)」と捉える。行為要求には依頼、勧め、許可などが含まれる。願望表現は、実現が望まれる事態が聞き手の制御可能な行為であり、かつ聞き手に向けて発せられると、行為要求として機能する。
 - いっしょに行ってほしい。〈依頼〉
 - いっしょに行ってくれないかな。〈依頼〉
 - ご自愛くださいますように。〈勧め〉
- 3) 「かな」が長音化した「ないかなあ」も「ないかな」に含める。なお、ここでの考察には含めないが、「ないかしら」も「ないかな」に近い意味と用法をもつと思われる。
- 4) グループ・ジャマシイ(1998)は「ないかな」を見出し項目として扱い、その用法として〈願望〉

と〈推測・懸念〉を挙げている。

- 5) 三宅(2000)は、「かしら」「だろう」も「かな」と同様に「疑念表明」としての表現効果をもつが、その表現効果をもつに至った理由はそれぞれ異なると述べている。
- 6) 井上(1994)は、命題疑問文を、単純に肯定命題/否定命題の真偽を問題にする「単純疑問文」と「当該の可能性への誘導」を表す「誘導型疑問文」に分類することを提案している。井上(1994)のいう「単純否定疑問文」が安達(1999)の「命題否定疑問文」に該当し、「誘導型肯定疑問文」が、傾きをもつ否定疑問文に該当すると思われる。
- 7) 「中納言」では動詞を否定する「ない」は語彙素「ない」、それ以外の品詞を否定する「ない」は語彙素「無い」として登録されている。
- 8) 書き言葉では「書き手」であるが、ここでは話し言葉・書き言葉を問わず発信者という意味で「話し手」と呼ぶ。「聞き手」も同様である。
- 9) 〈願望〉の「ないかな」244件のうち50件が「てくれる」などが前接するものである。例(19)がそれに該当する。
- 10) 高梨(2020)においては「てほしい」について〈希望〉という用語を用いているが、本稿1.で示した方針に従い、〈願望〉と呼び変える。
- 11) 「ないかな」から「てほしい」に置き換えにくい場合としては、「ないかな」に前接する動詞が「いる」「ている」、可能動詞など状態動詞の場合がある。
 - ・行きたいなあ……。誰か行ってくれる人(いないかなあ/?いてほしい)……また、「ないかな」に「てくれる」「てもらいたい」などが前接している場合、「てほしい」への置き換えにあたりそれを削除する必要がある。
 - ・早く(営業してくれないかなあ/営業してほしい)。
- 12) 「てほしい」から「ないかな」に置き換えられない場合としては、願望の主体(「私は」に当たるもの)が明示されている場合や、「ね」「よね」などの終助詞を伴い、聞き手への同意要求になっている場合がある。
 - ・監督に来季もなってくれるはずですが、、、どうなんでしょうかね、、、僕的には、辞任はやめてほしい!
 - ・そして来年はローテをしっかりと守れるようなピッチャーになってほしいね。

付記

本稿は、科学研究費助成金基盤研究(C)2019-2022年度「気づかれにくい文法的類義表現の研究」(課題番号:19K00637, 研究代表者:高橋美奈子)の助成を受けている。

資料

「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版(BCCWJ)」<https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/>

引用文献

- 安達太郎(1999)『日本語疑問文における判断の諸相』くろしお出版
- 安達太郎(2014)「否定・疑問とモダリティ」澤田治美編『ひつじ意味論講座 モダリティⅠ：理論と方法』pp.99-117, ひつじ書房
- 井上優(1994)「いわゆる非分析的な否定疑問文めぐって」研究報告集15, 国立国語研究所
- 奥田靖雄(1986)「まちのぞみ文(上)」『教育国語』85, pp.21-32, むぎ書房
- 工藤浩(2005)「文の機能と叙法性」『国語と国文学』82-8, pp.1-15, 東京大学国語国文学会
- グループ・ジャマシイ(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 徐愛紅(2001)「希望表明形式による意志表示——日中両語を対照して——」『日本語教育』109, pp.70-79, 日本語教育学会
- 高梨信乃(2010)『評価のモダリティ——現代日本語における記述的研究』くろしお出版
- 高梨信乃(2020)「「てほしい」はどのように用いられているか」『外国語学部紀要』23, pp.43-58, 関西大学外国語学部
- 仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法4 モダリティ』くろしお出版
- 野田春美編(2016)『日本語のモダリティのコーパス調査報告——『現代日本語文法』の記述の検証——』(科学研究費研究成果報告書)
- 前田直子(2006)『「ように」の意味・用法』笠間書院
- 益岡隆志(2006)「「～タイ」構文における意味の拡張——願望と価値判断」益岡隆志・野田尚史・森山卓郎編『日本語文法の新地平2——文論編』pp.63-76, くろしお出版
- 宮川和子(1998)「シテホシイとシテモライタイ——シテホシイの進出・定着——」『国文学 解釈と鑑賞』63-1, pp.41-50, 至文堂
- 三宅知宏(2000)「疑念表明の表現について——カナ・カシラを中心に——」『鶴見大学紀要 第一部 国語・国文学編』37, 鶴見大学
- 宮崎和人(2006)「「まちのぞみ文」について——「シタイ」と「シヨウ」——」益岡隆志・野田尚史・森山卓郎編『日本語文法の新地平2——文論編』pp.41-61, くろしお出版